

今年の梅雨は、例年と違い、しとしと雨というより、ゲリラ豪雨の頻度が多いですね。ここ数年の天気は、雨期に近い空模様です。地球温暖化の影響で、日本の四季が変化し、二季になってしまうかもしれません。日本の美しい四季の風景を今後も見続けられるように、私たちが何ができるか考えて生活をしていきたいですね。

6月号に引き続き、7月号のきらりは、理事長より『保育の質』について、お伝えします！

## GUESTに聞いてみよう♪ - Vol.3

### — PART2 — 『保育の質』って？

GUEST: 理事長 中山 昌樹



今回は保育のトレンド（最新動向）についてお伝えします。先日市内の保育者が200人以上集まり、「不適切保育」をどうしたらなくせるのか学び合いました。そこで講師の先生が、自分たちの保育をアップデートしない（見直しをしない）園では「不適切保育」が起きやすいと言っていました。保育を見直すことは、子どもの安全や権利を守るためにも重要です。

1. こども家庭庁そして、こども基本法ができ、『子どもの声を聴く保育』が求められる  
最新の赤ちゃん研究で明らかになったことですが、0歳児も言葉ではないけれど、視線や態度で自分の考えを表し、周りの大人を誘ったり同意を求めたりしているそうです。個人差はありますが、子どもは使える言葉を増やしながらか、自分とつながる人間関係や社会を作っていきます。小さな子どもは1人の人として考えや意見を表すことができるし、大人にはそれを聴くことが求められます。

これは実際に聞いた話ですが、転居を考えていた方が我が子に転園を伝えたら、そのお子さんはそれを嫌だと、自分の考えを述べたそうです。転居に関して複数の選択肢があったこともあり、結果的にそのご家族は転居を止めにし、そのお子さんは本園に通い続けることができました。子どもにも友人や大好きな先生がいます。それは小さいけれど1人の人として、自分の社会をもっているということなのでしょう。『子どもの声を聴く子育て』ですね。

2. 『スローベタゴジー』 じっくり遊び込み、深く学べるのが、今の時代で求められる  
今私たちの社会は忙しいですね。子どもたちの教育や保育でも、これが良いと言われたことがどんどんプラスされ、細切れの時間で何かをさせられている子どもの育ちが危ういと言われています。

小さい子どもでは、ゆったりした時間の中でとことん遊び込むことが必要です。時には砂場で自分と向かい合ったり、友だちと鬼ごっこを心から楽しんだり、時には悔しい思いをしたり。まさに遊び込むことで、人生で必要なものをすべて手にするのかもしれない。

そのように遊び込んだ子どもは、幼児期そして学童期と育つなか、1つのことから深く掘り下げた学びをするようになります。それが「探求的な学び」です。

前回のきらりでもお伝えしましたが、私たちは今、保育を見直しています。これまで通り『子どもの声を聴く保育』を実践しながら保育内容を厳選し、子どもたちが遊び込み、より深い学びができることを願い、見直しを行っていきたくと考えます。この保育のアップデートは、これから先を見通すことが難しい時代を生きる子どもたちに、学びの羅針盤（ラーニングコンパス）を提供するものと考えます。

\* 『子どもの声を聴く保育』は、子どもの“我がまま”を受け入れるものではありません。子どもの主張に伴う責任も含めながら、対話で進めていく保育です。

\* 『スローベタゴジー』とは・・・20年くらい前に、スローライフやスローフードという言葉が生まれましたが、スローベタゴジーはこれに沿った考え方で、最近、アリソン・クラークという研究者が提唱するもの。ベタゴジーは教育学。

